



JCS NEWS

日本チェロ協会会報 第34号 (2011年1月31日)

日本チェロ協会主催 チェロ・コングレス・イン・ ジャパン2011 開催!

プロ・アマ・若手・ベテランの垣根を越え、
チェリストが集結!
100名を超えるアンサンブルや
リレーコンサートなど、チェロづくしの3日間

2月11日(金・祝)～13日(日)、日本チェロ協会主催では初めての「チェロ・コングレス」を開催いたします。



若手から熟練奏者6名によるバッハ無伴奏チェロ組曲の全曲演奏会「チェロ・コングレス・オープニングコンサート」、若手チェリストが企画するデュオ演奏会「ヤング・チェリスト・プロジェクト」、第一線で活躍するプロ・チェリストによる「リレー・コンサート」をブルーローズ(小ホール)で開催します。さまざまな規模のチェロ・アンサンブルをさまざまなチェリストで演奏する「チェロ・アンサンブル・コンサート」は、大ホールで開催。特に、会員の多くの方にもご参加いただき、プロ・アマのべ約180名の大アンサンブルは必見です。ハワイエ(ロビー)では、こどもたちにチェロの楽器体験をしていただく「親子チェロ教室」を、毎年チェロ協会で行っている「マスタークラス」も同時に開催します。

“人の声に最も近い音を奏でる楽器”といわれる温かい音色に惹かれて、チェリストだけではなく、多くの方が集い、音楽を聴き、感じていただくイベントを通して、人々の心がつながる“祭り”になればと実行委員一同願っております。ご参加・ご出演の皆さんと一つになり、イベントを進めて行きたいと思っております。

■3日間の主なプログラム内容■

2月11日

●オープニング・コンサート

19:00 開演

於：サントリーホール ブルーローズ(小ホール)

チェロの名曲・バッハの無伴奏チェロ組曲全曲を、6人の個性豊かなチェリストが演奏します。日本のチェロ界を代表する奏者と、近年のコンクールで入賞歴のある活躍著しい若手奏者が交互に登場します。

<曲目・出演>

J. S. バッハ作曲 無伴奏チェロ組曲

第1番 ト長調 BWV1007

: 岩崎 洸 (桐朋学園大学院大学教授)

第2番 ニ短調 BWV1008

: 岡本侑也

(ガスパール・カサド国際チェロコンクール奨励賞)

第3番 ハ長調 BWV1009

: 倉田澄子

(桐朋学園大学教授・日本チェロ協会評議委員)

第4番 変ホ長調 BWV1010

: 中木健二

(ルトスワフスキ国際チェロコンクール第1位)

第5番 ハ短調 BWV1011

: 鈴木秀美 (バッハ・コレギウム・ジャパン/オーケス

トラ・リベラ・クラシカ／東京藝術大学古楽科講師)
第6番 ニ長調 BWV1012
：加藤文枝
(ビバホールチェロコンクール 第1位)

2月12日

●ヤング・チェリスト・プロジェクト

「チェロ・デュオの魅力」

13:00 開演

於：サントリーホール ブルーローズ (小ホール)

若手チェリストが企画段階から参加し、伝えたいメッセージをプログラミングします。若手チェリストの主体的な取り組みの場を提供するとともに、彼らの想いに聴衆が直に触れる機会となることを目的としています。

<出演> 伊藤文嗣、小野木遼、加藤陽子、清水詩織、高木慶太、高橋麻理子

<曲目>クンマー：2本のチェロのための3つの二重奏曲第1～3番／バリエール：2本のチェロのためのソナタト長調／ポッパー：2本のチェロのための組曲op.16／パガニーニ：モーゼの主題による幻想曲 (チェロ二重奏版)

●親子チェロ教室

10:00 開始

於：サントリーホール ホワイトエ

まだあまりチェロに馴染みのない子どもたちやそのご家族の方に、チェロという楽器を見て、体験していただきます。講師による楽器の説明やチェロの弾き方のデモンストレーション、才能教育研究会チェロ科の約60名の生徒による演奏を行います。参加者が実際にチェロの演奏が出来るコーナーも準備しています。

<講師・出演>長谷部一郎 (東京都交響楽団)、才能教育研究会チェロ科指導者とチェロ科生徒

<チケット>入場無料

*どなたでもお楽しみいただけます。

●チェロ・アンサンブル・コンサート

18:30 開演

於：サントリーホール 大ホール

チェロ・コンGRESSに参加するさまざまな演奏家たちが一堂に会して、さまざまなカラーの音楽を創っていくコンサートです。コンサートの後半では、プロ・アマチュア合わせて180人を超えるチェリストが集結した大アンサンブルの演奏を行います。

<プログラム>

第1部：

- ・才能教育の子供たちによるアンサンブル演奏
- ・プロの演奏家によるアンサンブル演奏

<曲目・出演>

クレンゲル：即興曲op.30

倉田澄子、堤剛、堀了介、山崎伸子 (チェロ)

ポッパー：レクイエムop.66

荻田雅治、千本博愛、毛利伯郎 (チェロ)

小森谷裕子 (ピアノ)

チャイコフスキー：アンダンテ・カンタービレ

植木昭雄、高木慶太、長谷川陽子、堀沙也香

向山佳絵子 (チェロ)

カザルス：東方の三賢人

～オラトリオ「エル・ペセブレ (まぐさ桶)」より

石川祐支、井上雅代、植草ひろみ、小川剛一郎、小澤和子、齋藤鶴吉、猿渡輔、林俊昭、堀沙也香、松浦ふさ代、三宅依子、森純子 (チェロ)

第2部：

プロ・アマチュア参加者による大アンサンブル

プロ・アマチュア参加者による全体演奏

<出演>プロのチェリスト、日本チェロ協会会員および一般公募したチェリスト 計約180名。※一度に舞台上で演奏するのは約130名。

<指揮>山本祐ノ介

<オルガン>水野 均

<曲目>クレンゲル：ヒムヌス／ゴルターマン：レリジオーソ／H. パーセル：シャコンヌ／カザルス：サルダーナ／フォーレ：ラシーヌ讃歌

2月13日

●リレー・コンサート

14:00 開演

於：サントリーホール ブルーローズ (小ホール)

第一線で活躍しているチェリストたちが、数々の名曲をお届けする、チェロ・コンGRESSのフィナーレにふさわしい華やかなコンサートです。チェロを演奏する人にもしない人にもチェロ音楽の響きや可能性を感じていただき、よりチェロを好きになっていただくことを願っています。

<曲目・出演>

フォーレ：エレジー op.24

小川剛一郎 (チェロ) 鳥羽亜矢子 (ピアノ)

ピアソラ：悪魔のロマンス／天使の死

齋藤建寛 (チェロ) 細見理恵 (ピアノ)

ヒナステラ：パンペアーナ第2番op.21

松波恵子 (チェロ) 小森谷裕子 (ピアノ)

ジョリヴェ：夜想曲

千本博愛 (チェロ) 鳥羽亜矢子 (ピアノ)

フォーレ：夢のあとに

カステルヌオーヴォ＝テデスコ：フィガロ

長谷川陽子 (チェロ) 小森谷裕子 (ピアノ)

ショパン：序奏と華麗なポロネーズハ長調op.3

藤森亮一 (チェロ) 小森谷裕子 (ピアノ)

プロコフィエフ：チェロとピアノのソナタハ長調op.119から第1楽章

荻田雅治 (チェロ) 小森谷裕子 (ピアノ)

ポッパー：ハンガリー狂詩曲op.68

宮田大 (チェロ) 鳥羽亜矢子 (ピアノ)

ドビュッシー：チェロとピアノのソナタ

山崎伸子 (チェロ) 鳥羽亜矢子 (ピアノ)

カサド：親愛なる言葉

堀了介 (チェロ) 小森谷裕子 (ピアノ)

J. S. バッハ：シャコンヌ

堤剛 (チェロ)

全体アンサンブル、 有志による練習会開催!

■2010年12月23日(祝) 9:00~

初めての有志による全体アンサンブルの練習会が都内の「いきいきぷらざ一番町」で開催されました。会員でチェロ・コングレスの実行委員として「アンサンブルマネージャー」をつとめる藤井直さんが練習の指揮をとり、練習会が進められました。

会場の都合で、今回は朝9時~12時の3時間で5曲をさらいました。

前半に、プログラム前半の3曲「ヒムヌス」「レリジオン」「シャコンヌ」、後半からは、プログラム後半の2曲「サルダーナ」「ラシーヌ讃歌」です。

前半だけのご出演の方数名が、後半の曲の見学をして下さるなど、ご参加のみなさまの練習に対する熱意が感じられました。練習を重ね、どのような演奏になっていくのか、非常に楽しみです。



ご参加の会員番号R-001番、三木隆二郎さんにアンケートにお答えいただきました。

参加者の声 三木隆二郎さん

ーコングレス・アンサンブルに参加しようと思ったきっかけは?

1000人のチェロや日韓チェロなどにこれまでも参加していますが、今回はサントリー大ホールということで魅力を感じました。オーケストラには所属していない自分が大ホールで演奏するのはめったにない機会です。

ー12月23日の練習はどうでしたか?

藤井さんが要領よく指導されて、各パートのアタマをベテランのチェロ弾きがリードしたので、非常によい練習



習が出来たと思います。

ーチェロをはじめでどれくらい?

46年前からです。小学校からはじめましたが中学校はブラバンでTbを吹いていました。高校・大学でオーケストラ部に所属し、先生について習いました。社会人になってしばらくしてから留学した米国の大学オケでも弾いたり、英国に赴任した際にも教会で演奏する弦楽合奏団に所属していました。

ーいつもはどのように、チェロの活動をしているのですか?また、ご職業は?

いつもは、事情があつて生演奏を聴く機会のない方のためアンサンブルを組んで弾いています。毎年、聖路加国際病院の患者さんのために弦楽合奏団を主宰して演奏するトリトン・チェンバー・アンサンブルの活動は今年でもう10年です。

職業は会社員ですが、ホールの公演主催NPOの理事や自宅そばの公立文化施設の文化プレーヤーとして、コミュニティでの音楽活動を精力的に行っています。

ー本番へ向けての意気込みをお願いいたします!

せっかくよい練習もできているので、必ず素晴らしい演奏になるよう皆で力を合わせたいですね。その為にはたくさんの聴衆が必要です。自分のために演奏するより誰か聴いて下さる方のために演奏する方が、きっとよい演奏になるはず。皆で仲間を集めましょう。

■2011年1月9日(日) 9:00~

2011年最初の練習会は、指揮をつとめてくださる、チェリスト・山本祐ノ介さんが指導にいらしてくださいました。

練習は、港区芝浦区民センターで朝9時から開始。11時頃に指揮の山本祐ノ介さんが到着され、午前は前半の曲をさらいました。お昼休憩のあとは後半組の練習。いよいよ、あのカザルスの「サルダーナ」の練習です。

昨年の第1回「チェロの日」でも演奏したこの難曲に、皆さま非常に苦勞されているようです。最初は指揮をし





ながら曲を進めていたのですが、途中から、ご自分のチェロを取り出し、細かい弾き方の指導も加わりました。

パートごとに抜き出しての練習、わかりにくいパートを声に出して歌いながらの意欲的な指導に、参加の皆さんも必死についていっていたようです。短い箇所を何度も繰り返し、どのような音楽の構成か説明がある中、練習が進んで行きました。

汗をふきながらの熱のこもった指導は、終了時間の16時までみっちり続けました。

練習終了後、楽譜を見るのに精一杯で、指揮を見られず不安な様子の方もいらっしゃったようですが、参加者のみなさんに「指揮を見ていたら大丈夫！」という、祐ノ介さんの力強い言葉がとても印象に残る練習会でした。山本祐ノ介さんの指揮や、皆さまの練習を見て、ますます本番が楽しみになりました。

昨年「チェロの日」もご参加くださった窪田淳子さん、全体アンサンブル・最年少参加者の田中弘基くんにアンケートにお答えいただきました。

参加者の声 窪田 淳子さん

ーコンgress・アンサンブルに参加しようと思ったきっかけは？

昨年「チェロの日」に参加してとても良い経験になったので、今回も、プロの方と一緒に演奏できる貴重なアンサンブルを楽しみに参加しました。

ー1月9日の練習はどうでしたか？

前半、後半合わせて、たっぷり6時間の練習だったのでハードでしたが本番当日の指揮者の方のサプライズ参加もあり、こまかい指導まで頂けてとても充実した練習内容でした。

ーチェロをはじめてどれくらい？

5年目になったと思います。

ーいつもはどのように、チェロの活動をしているのですか？ また、ご職業は？

ーふだんは、毎週のレッスンに通っています。その他、月1回のアンサンブル会の集まりにも参加しています。あと、不定期ですが、チェロ仲間に声をかけたり、かけてもらったりしてアンサンブルの練習、お楽しみ会をしています。

ー本番へ向けての意気込みをお願いいたします！

チェロコンgressの本番まで、あと1ヶ月ばかりとなりました。その1ヶ月のあいだ、あと数回、合同練習が



あります。練習の回を重ねるごとに、だんだんと出来なかったところが出来るようになってたり全体の音がまとまってきたり、少しずつ進歩を続けて、みんなで本番に向かいます。

当日の演奏がフィナーレで一番盛り上がるとは思いますが、そこまで、仲間たちと歩いていく道のりも、またかけがえないものだと感じています。個人的には、「SARDANA」の迫力ある全体合奏、それから、生まれて初めてのパイプオルガンと一緒に演奏となる「ラシーヌ賛歌」が、特に楽しみです。

サントリーホールの大舞台上、プロの方とアマチュアのチェリストによる演奏、夢の祭典(!?) 今からワクワクします。

参加者の声 田中 弘基くん

ーコンgress・アンサンブルに参加しようと思ったきっかけは？

先生からお話を伺って、ぜひやってみたいと思いました。

ー1月9日の練習はどうでしたか？

大人の方たちと合奏するのは初めてなので新鮮でした。皆さんがとても熱心なのがよく分かりました。

ーチェロをはじめてどれくらい？

ちょうど5年です。

ーいつもはどのように、チェロの活動をしているのですか？ また、ご職業は？

小学校5年生です。才能教育の教室で習っています。普段のレッスン、合奏のほか、いろいろなコンサートや、夏休みには夏期学校や合宿があり、とても楽しいです。

ー本番へ向けての意気込みをお願いいたします！

サントリーホールで自分の音が鳴ることを楽しみにしています！



チェロ・コングレス出演のお二人にインタビュー!!

チェロ・アンサンブルの 指揮が出来て素直に嬉しい!

山本祐ノ介さん
(1月9日)



2月12日(土)、チェロ・アンサンブル・コンサートで、アマチュアとプロのチェリストのべ180人が演奏する「全体アンサンブル」の指揮をしてくださるチェリスト・山本祐ノ介さんにお話をうかがいました。

—山本さんは最近、指揮活動とチェリストとの演奏活動両方をされていますが、もともと指揮はいつ頃からはじめたのでしょうか。

子供の頃から勉強はしていて、これまでもたまに指揮をしていました。ここ10年くらいは特に力をいれてまじめに取り組んでいます。チェロと指揮以外には、編曲や作曲も取り組んでいます。

—今回、チェロの祭典である「チェロ・コングレス」のコンサートで、チェリストではなく、「指揮」としてのご出演をお願いしていますが、実際お話を聞いたときはどう思われましたか？

素直に嬉しかったです。特に最近、本当に指揮が好きで、もっと指揮者として活動したいと思っています。

10年くらい前に、国際チェロアンサンブル協会の日韓親善チェロアンサンブルという企画で、その時はほとんどアマチュアの方のチェロアンサンブルでしたが、韓国から来たプロの演奏家もあわせて300人ほどを、その時に指揮をさせていただきました。韓国でも同じ企画の演奏会があって、その時はチェリストとして参加しました。指揮とチェロの演奏両方で関わって、非常に楽しい経験でした。

—やはり、チェロアンサンブルを振るといのは特別なものですか？

チェロアンサンブルは何と言っても、自分の一番の得意分野なので、今回のお話はすごく嬉しかったし、本番をととても楽しみにしています。

—今回練習に参加してみて、どうでしたか？

今日はまだ、譜読み程度の練習でしたが、皆さんのチェロへの情熱が強く感じられました。

—「サルダーナ」の練習に時間をかけていらっしやいましたが、やっぱり一番本番も心配でしょうか？

プロでも演奏するのが難しい曲なので、今回演奏する5曲の中で一番心配です。ですが、同時に、一番本番が楽しみな曲でもあります。本番に向けてどうもっていくか、指揮者の知恵の使いどころですね。

—プロとアマチュアの混在したアンサンブルの指揮をすることにに対してはどうお考えですか？

プロの演奏家と、アマチュアの方へは少し違ったアプローチが必要だと思っています。プロの方は、たとえば演奏の細かい技術的なことなどは言わないでも、わかっていることが多いので、自分の音楽的な面での伝えたいことだけは伝えて、練習はなるべく短めにして演奏家が自分でさらう時間を作るよう配慮したりします。実際、自分もオケに10年位いたので、指揮を振られる側(演奏家)の気持ちがよくわかるので。

アマチュアの方に対しては、もっと技術的なことを細かく言ったりもしますし、音楽の流れを感じてもらおう、なるべく曲のはじめから通すようにしています。

練習会全部には出られませんが、できる限り来られたら…と思っています。またプロの人たちが実際に参加する、前日(2月11日)のリハーサルに向けて何をしたらよいか…、よく考えてやっていきたいと思います。

—本番に向けて一言!

自分が指揮することによって、この全体アンサンブルの演奏がより楽しいものになればいいな、と思っています。そして、このコンサートによって、クラシック音楽の良さ、素敵さを伝えることが出来、音楽を、チェロを好きになってくれる人が増える、そういう機会になれば最高です。

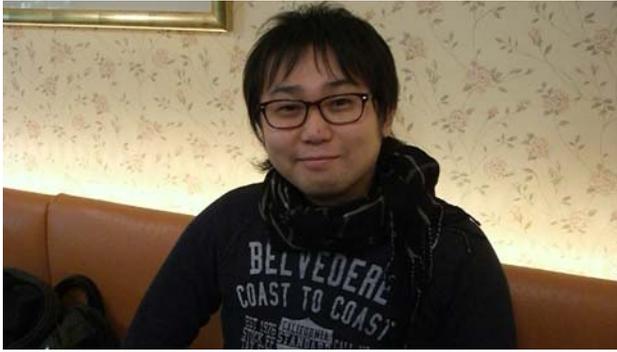
山本祐ノ介さんは、指揮者・チェリストだけでなく、作曲家・編曲家、さらに、音楽祭のディレクターや、演奏会企画など、多岐に渡って活動をされています。お忙しいスケジュールの合間に、急遽、アンサンブルの練習にも長時間お付き合いくださったあと、インタビューにも快く応じてくださいました。

山本祐ノ介さんが作り上げるチームワークのアンサンブル演奏、是非楽しみにしていただきたいと思います。

チェロ・デュオの魅力を もっと知って欲しい!

高木慶太さん
(1月17日)

ヤング・チェリスト・プロジェクトの企画段階から関わってくださり、自身もご出演される高木慶太さんにお話をうかがいました。



—今回の企画は、実は、以前チェロ協会の総会にご出席くださった際、「若手に演奏の機会がもっとあるといい」という高木さんのお話がきっかけになっていますが、実際企画をしてみてくださいか？

もともと、「東京チェロアンサンブル」として、学生時代の友人と演奏会を企画していたので、企画すること自体には抵抗はありませんでした。ただ、実際、東京チェロアンサンブルでは、他のメンバーも多くいる上での企画なので、今回は少しだけ不安にも思いました。

—今回は、ヤング・チェリスト・プロジェクトとして「チェロ・デュオ」を取り上げていただきましたが、その理由は？

チェロ・コングレスのスケジュールを見ていたら、ソロ、または、チェロ・アンサンブルが中心のプログラムが多い印象だったので、あえて、違ったアプローチの演奏を聴かせられたら…と思い「デュオ」を選びました。普段あまりチェロのデュオだけを聞かせるコンサートが行われていないので、チェロ2本の演奏の魅力を伝えられるいい機会かな、と思いました。

—チェロ・デュオの魅力とは？

チェロは、もともと低音も高音もでる、バランスのとれた楽器なので、2本集まったら、立派なアンサンブルになります。2本しか演奏しないので、お互いの個性を出し合って競い合う面や、それぞれの個性をよりアピールができる面もあります。二人の全く違う個性と、その混ざり合いを楽しんでもらえる編成だと思っています。

—出演者も高木さんに選んでいただきましたが…？

清水さん以外は普段一緒にやってないメンバーです。もともと知り合いです。ただあまりやったことはなく、3人はまだ学生です。これから活躍が期待される、もっと皆さんに知ってほしい若手から選びました。

—本番に向けて一言お願いします。

二重奏独特の楽しみをお聴きいただき、見出して頂けると幸いです。テーマは「シンプルに！」です。この演奏を聴いて、アマチュアの方に、二人いれば一番シンプルな形のアンサンブルになる、と思ってもらいたいです。そして、デュオの演奏に挑戦したいと思ってほしいですね。意外と知られていない、デュオ演奏の魅力と楽しさを伝えられていたらいいと思っています。

高木さんは、所属している読売日本交響楽団の演奏会や、ご自身で組まれているカルテットでの活動など多忙ななか、インタビューにご協力いただきました。

本番も、ますます、楽しみです。皆様のご来場心よりお待ちしております。

事務局より

○チェロ・コングレス・イン・ジャパン実行委員会 プロダクション・マネージャー 渡邊亮より挨拶

「プロダクション・マネージャー」を拝命した渡邊亮（R-240）と申します。番号からもお分かりの通り、会員歴は比較的新しいのですが、2005年に行われた「インターナショナル・チェロ・コングレス・イン・神戸2005」でも裏方として参加させて頂いたご縁で、お手伝いさせて頂いています。

今回のコングレスでも、3日間に渡って素晴らしいチェリストによる多彩なプログラムを実現する事ができて、本当にワクワクしています。これも、会員である出演者の皆さまの深いご理解のおかげと、心から感謝しております。

コングレスの運営に当たっては、企画段階から多くの方々と共に準備を進めています。企画・制作のプロや、広報のスペシャリストなど、専門的な知識・経験をお持ちの方々のお力添え無くして、このイベントは実現できません。最小限のマンパワーですが、皆さん本業の合間を縫って準備を進めています。事務局の東さんも、本当に大変な毎日だと思います。しかしこれも、みなチェロを愛する気持ちが同じだから出来ること。素晴らしい瞬間の連続になるであろう3日間を想って、頑張っています。

このチェロの祭典、ぜひ隅から隅までお楽しみ下さい！

○チェロ・コングレス チケットにつきまして

おかげさまで、「オープニング・コンサート」「リレー・コンサート」は完売いたしました。それに伴い3日間通しパスも販売終了いたしましたのでお知らせいたします。販売にご協力いただいた皆さま、どうもありがとうございます。

<編集後記>

ついに、「チェロ・コングレス・イン・ジャパン2011」が開幕します。開催にあたり、多くの会員のみなさまにご協力いただき、心より御礼申し上げます。会員のみなさま、ご参加のみなさまにお目にかかれるのを事務局・実行委員一同、楽しみにしております。(東)

日本チェロ協会会報 (JCS NEWS) 第34号

2011年1月31日発行

発行：日本チェロ協会

東京都港区赤坂1-13-1 サントリーホール内

電話 03-3505-1991 FAX 03-3505-1007

発行人：堤 剛

編集：日本チェロ協会事務局

編集協力：リュウカンパニー